

「 文法 文の組み立て 」

～ よりよい文の作り方 ～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 言語知識・技能 (学校) 主体性

- 1 日時 令和2年9月18日 14:05～14:55
- 2 学年 第1学年1組 (男子15名 女子16名 合計31名)
- 3 場所 新館2F 1年1組教室
- 4 単元について

○教材観 本単元は、「伝国」の指導事項 イ(ウ)「文の中の文の成分の順序や照応、文の構成について考えること」に関連する単元である。文がどのような意味を表しているかを正確に理解したり、自分の表したいことが、的確に伝わる文を作ったりするためには、文の組み立てを正しく理解することが必要になる。文の組み立ての核になるのが主・述の関係である。ここでは、文を組み立てる「主語」「述語」「修飾語」などの文の成分を理解することをねらいとしている。

本単元では、まず、言葉にも単位があることを知り、次に「文」を組み立てる「文節」の働きについて学んでいく。そして、文を組み立てているのは、複数の「文節」であり、それらの文節は、「主語、述語、修飾語、接続語、独立語」の5つの働きに分けられることを理解する。私たちは、これらの文節を並べて、瞬時にして、「文」を作っていることになる。この単元を学ぶことで、文の「主・述」がねじれてはいないか、修飾語の位置はここでよいか、などと少し立ち止まって考えることができるようになれば、よりよい文の表現や理解につながるはずである。

○生徒観 本学級の生徒の文法に対する知識や学習についての意識調査を行った。(31名)

	質問	回答
(1)	文法(ことばのきまり)の学習は好きですか。	はい37% いいえ67%
(2)	文章を書くときに「主語はだれか」を考えて書いていますか。	はい27% いいえ73%
(3)	話すときに「主語はだれか」を意識して話していますか。	はい33% いいえ67%
(4)	「公園では、犬がワンワンほえていた。」の主語を答えなさい。	公園30% 犬70%
(5)	「わたし、兄ちゃんみたいにもてないから。」 このとき、兄ちゃんはもてる?もてない?	もてる83% もてない13% 両方4%
(6)	「母は 必死に 逃げる ねずみを 追いかけた。」 「必死」なのは、母?ねずみ?	母20% ねずみ73% 両方7%

本学級の生徒は、文法に苦手意識をもち、書いたり話したりするときに主語を意識していない生徒が多いようである。(4)の誤答が30%と多く、(5)(6)の文のあいまいさに気がついた生徒も一人だった。生徒の書いた作文を読むと、一文が極端に長い生徒や、段落が正しく作れていない生徒、主述のねじれなど、指導すべき点が多くある。今回の文法の単元が、文や文章を作らせる指導のいい機会だと捉えている。文法の学習を通して、よりよい文や文章を書くことを生徒たちに意識させたい。

○指導観 指導に当たっては、知識や用語の詰め込み、練習問題の解説に偏らないように留意し、生徒が自分たちの言語生活を振り返られるような学習活動を目指したい。そのために、カードを使って、いろいろな文を組み立てたり、カードを分類したりする活動を取り入れる。カードを並び替えることでさまざまな文ができるが、よりよい理解や表現につながるものはどれかを考えさせたい。

今年度、コロナ禍の影響で、「言葉の単位」(全2時間)と「文の組み立て」(全3時間)を連続して指導することになった。「言葉の単位」で、文節について学び、文節に区切ることができるようになっ

た後、ひき続き「文の組み立て」（文節の働き）の指導を行う。文法が苦手な生徒にとっては、連続して「文節」について学ぶため、「単語」と混乱しなくてすむのではないかと考えている。（なお、文を「単語」に分解する指導は、「単語の分類」の直前に行うことにする。）

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

資質・能力	知識・スキル			意欲・態度	
	表現力・コミュニケーション能力			主体性	
レベル1	授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）	（話す speak） ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	（聞く） ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問することができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。
レベル2		（話す tell） ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	（聴く） ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて、内容を深めるために質問ができる。	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル3		（話す talk） ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	（訊く） ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。
レベル4		自らが司会をして、少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

6 単元目標

- 「主・述」「修飾・被修飾」などの関係について、理解する。
- 文節どうしの関係から、文の組み立てを考える。

7 評価規準

意欲・関心・態度	伝国
・文のきまりに関心をもち、言葉の単位や文節どうしの関係などについて理解しようとしている。	・文の組み立てにおいて、「主・述」「修飾・被修飾」の関係を理解している。 ・文節どうしの関係から、文の組み立てを考える。

8 指導計画（全5時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点				評 価	
			関意	伝国			評価規準	資質・能力（評価方法）
課題の設定	1	・言葉の単位 （2時間）	○				・文のきまりに関心を持ち、言葉の単位について理解しようとしている。【国語への関心・意欲・態度】	【主体性】（観察）
単元を貫く問い（探究課題の萌芽） 文にはどんなきまりがあるのだろう。								
情報収集・分析	3	・文の組み立て （2時間） 本時		◎			・文の組み立てにおいて、「主・述」「修飾・被修飾」の関係を理解している。 【	【主体性】（観察） 【言語知識・技能】（ワークシート）
まとめ・振り返り	5	・複雑な文の組み立て （1時間）	○				・文節どうしの関係から、文の組み立てを考える。	【主体性】（ワークシート）
単元を貫く問いの終結 文を組み立てるパーツは、「文節」である。文節は、「主語・述語・修飾語・接続語・独立語」の働きをしながら、文を組み立てている。この五つを「文の成分」という。								

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○「主・述の関係」「修飾・被修飾」など、文の成分について理解する。

(2) 本時の評価規準

・文の組み立てにおいて、「主・述」「修飾・被修飾」の関係を理解している。

(3) 準備物

・カード，練習問題プリント（基礎編，チャレンジ編）

(4) 学習の流れ（3時間目／全5時間）

学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて）	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
1 既習事項の確認。〔3分〕		
・「言葉の単位」「文節」について振り返る。	◇「言葉の単位は5つです。文章，段落，文，文節，そして最後に単語です。」 ・文をさらに分けると「文節」になる。 ◆前時のプリントを見て思い出させる。	
2 本時の学習課題を設定する。〔5分〕		

導入の工夫

<p>・例文を読み、考えよう。</p>	<p>・トムは 必死に 逃げる ジェリーを 追いかける。 ◇「必死に」が トムとジェリー両方に受け取れることに気がつかせる。→あいまいである。</p>	
<p>学習課題 よりよい文の作り方を考えよう。</p>		
	<p>よりよい文とは 相手にちゃんと伝わる。誤解がない。わかりやすい。あいまいでない。</p>	

3 情報を整理・分析し、課題解決をする。[17分]

<p>・20枚のカードから、5つの文を作ってみよう。</p> <p>・どうやってその文を作ったのか、振り返ろう。</p> <p>・20枚のカードを働きの似ているものでグループに分類しよう。 (小グループ・ホワイトボード)</p>	<div style="text-align: center;"> </div> <p>◇まず、「誰が」と「どうする。」の組み合わせを考えよう。これが文の柱になる。 「誰が」がない文もある。</p> <p>① 僕は～出会った。 ② 別れは～訪れた。 ③ ()～エアコンを つけて ください。 ④ ()～負けないぞ、 ←「、」に注目させる。 ⑤先生は いらっしやいますか。</p> <p>◆「先生」と「先生は」は同じグループかどうか。 ◆「暑いから」は、暑い+だからと考える。 ・「いつ、誰に、どのように、何を」→修飾するグループ</p> <p>◇「もしもし、」「先生、」はその他にしてもよい。</p>	<p>【主体性】(観察)</p> <p>・文の組み立てにおいて、「主・述」「修飾・被修飾」の関係を理解している。</p> <p>【言語知識・技能】 (ワークシート)</p>
--	--	--

小グループの活用

5 課題解決について発表をする。[10分]

<p>・3グループに発表させる。</p> <p>・質問や意見を出させる。</p>	<p>・いくつかのグループに分けたか。</p> <p>・それぞれのグループの特徴。</p> <p>【誰が、何が】 ←主語 【どうする】「。」がついている。 ←述語 【いつ、誰に、どのように、何を】 ←修飾語 【つなげる】 ←接続語 【その他】 ←独立語</p>	
--	--	--

6 学習のまとめをする。[5分]		
3 本時のねらいを確認する。[5分]	<ul style="list-style-type: none"> みんながグループに分けたそれぞれが「主語・述語・修飾語・接続語・独立語」である。 文を組み立てるのは、主語・述語・修飾語・接続語・独立語の働きをもつ文節である。 この五つを「文の成分」という。 	
7 本時を振り返り、次時につなげる。[5分]		
○振り返りを書く。		
<p>生徒の振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none"> 文を作るのは文節なのだと改めてわかった。 5つの文の成分を知ることができた。 主語と述語をはっきりさせて、書いたり話したりしたいと思う。 文節を並べる順序が大切なことがわかった。 主語をかん違いしないように述語との関係を確認したい。 		
○練習問題を解く。		

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	「主・述」や「修飾・被修飾」の関係を捉え、「接続語」「独立語」との区別が理解出来ている。学習したことを自分が文を書いたり、話したりするときに生かそうとしている。
B（合格）	「主・述」や「修飾・被修飾」の関係を捉えることができています。
C（乗り越えさせたい実態）	「主・述」の関係を捉えることができない生徒には、まず、述語を確認し、それに対する「誰が」を探させるよう指導する。

(5) 板書計画

接続語 **修飾語** **主語** **独立語**

の位置に気をつけて

よりよい文を作るには、五つの文の成分を上手く組み立てよう。

〔その他〕

先生、
もしもし、

〔いつ、誰に、どのように〕

三年前・彼女に
突然・
エアコンを、
絶対に・
この・試合は。

〔誰が、何が〕

僕は
別れは
先生は

〔つなげる〕

ところが、
暑いから

〔どうする〕

出会った。
訪れた。
つけてください。
負けないぞ、
いらっしやいますか。

単元名 文法 文の組み立て

学習課題 トムは必死に逃げる。ジェリーを追いかける。